

【寄稿】医学・獣医学・保全生態学の学際分野「保全医学 Conservation Medicine」の標的はワンヘルスとして、その patient は？ー前編

浅川満彦（酪農学園大学 名誉教授・非常勤講師 / 野生動物の死と向き合う F・VETS の会代表）  
連絡先 mitsuhikoasakawa（アットマーク）gmail.com

### はじめにー本稿の背景と目的

2024 年とその翌年、日本臨床微生物学会総会にて理念ワンヘルスに関し、日本野生動物学会認定専門医 / 野生動物専門職修士 MSc Wild Animal Health, Royal Vet. Coll., London Univ./Zool. Soc. Lond. としての観点から講演する機会等を得、両講演骨子・概要や今後の課題（特に、医療従事者の皆さんから患者様含む一般への啓発の重要性）等を明文化した（浅川 2025a）。

さらに、有難いことにその続編を 2026 年 2 月、第 37 回総会教育講演でも行うことになった。当該大会は高橋 孝会長（北里大学大学院）がメインテーマ「臨床（医）と微生物検査（師）との更なる絆」を掲げ幕張メッセ国際会議場で挙行される予定で、感染症医療における医師・検査技師と密接な協働がいつそう期待される。

ところが、サブテーマ「会場で楽しみながら学ぶ、学びながら楽しむ」とあり個人的には苦慮している。なぜならば拙劣な話し手の著者は参加者を眼前にした途端、サービス精神が首をもたげアレやコレやと話題が沸き上がり、最終的に時間切れになるおそれがある。そこで話を「残り（の内容）はお手元のスマホや iPad 等でご確認を」と切り上げるために、その会場で話し足りない内容を（可能な限り）楽しく学んで頂くための自習・補足資料として本稿を執筆した。

### 保全医学とは

日本臨床微生物学会総会での教育後援の講演題目は本拙稿とほぼ同名である。題名にある保全医学とは今世紀初頭に英国で刊行された書籍『Conservation Medicine』の書名を和製漢語化したものである（浅川 2025/2026）。この科学は医学・獣医学・保全生態学の学際ワンヘルスを研究対象にする分野と定義された。しかし、保全医学には医学と付くが patient が誰か（何か）が必ずしも明示はされていない。これは宜しくない。ワンヘルスの理念から生じた学問領域の目的が漠然なのは、肝心の理念自体が単なる空言だけに終始してしまう危険性があるからだ。そこで本稿（と講演）ではこの答え探しを試み、人と動物の感染症対策におけるワンヘルスの必要性を再確認することにした。

### 未開フロンティア「医獣連携」への誘い

もっとも話は会場で十分、自習（資料）不要と見なされる方も多いだろう。普通、自習とは退屈なので、大会副題のような楽しさが無い。確かにそのような面もあるだろうが、書き手から一言。この作業により、きっと皆さんは間違いなく未開（無関心）であった獣医系フロンティアに足を踏み込むことになる。日頃の激務で疲れ果ていらっしゃるだろうがこのような探検・冒険ならば「楽しさ」に覚醒しよう。向かう先は「医獣連携」と呼ばれる地平である。

まず、「医獣連携」を知るには、これに密接に関連する理念・概念の諸関係性理解が前提になる。図 1 をご覧頂きたい。これは前述した『Conservation Medicine』<https://academic.oup.com/book/51020>（オクスフォード大学出版会、202 年刊行）の表紙のデザインと、そこに利用されている三つの円からなるベン図に、著者の解釈を添えたものである。当該ベン図はワンヘルスの直感的理解のため、この上なく優れたアイコンである。ゆえに変形バージョン含め医療系の皆さんでも何処かでご覧になっておられるはずだ。

### ワンヘルス直感的に理解するためのベン図

図 1 の三つの円の内、最上にある円が Human Health である。そこには聴診器の画があったが著者が改変時に消えてしまった。ただし、聴診器自体は獣医学（獣医療）でも頻用されるツールなので、もし、この本の改訂版が出るなら、ここは医学・医療に特化した器具のピクトグラムに代えてが欲しい（何の器具がよいでしょうか？）。いずれにしてもその円は医学分野範囲と解されたので著者は図 1 に「医学」を付した。

ここで、図 1 の用語を解説しておく。



95%e7%89%a9%e5%8c%bb%e5%ad%a6%e3%81%ae%e7%8f%be%e7%8a%b6%e3%80%90%e7%ac%ac1%ef%bc%92/ で示したようなシーンでイメージ頂きたい。

#### 【引用文献】

- 浅川満彦. 2016. 防除対策：隔離・ワクチン・環境管理. 感染症の生態学（日本生態学会 編），323-336，共立出版，東京.
- 浅川満彦. 2021. 野生動物医学への挑戦－寄生虫・感染症・ワンヘルス，196pp，東京大学出版会，東京.
- 浅川満彦. 2025a. 「人と動物の共通感染症」の現状と課題 - 特に野生動物専門医の視点から. 日臨微生物誌，25: 11-19. <https://www.jscm.org/journal/full/03501/035010011.pdf>
- 浅川満彦. 2025/2026. “ワンヘルス / 保全医学” を公共知とするために（その 1 ～ 7）. 北獣会誌，68/69: 印刷中. [以下リポジトリ「酪農学園大学学術研究コレクション」[https://rakuno.repo.nii.ac.jp/search?page=1&size=20&sort=controlnumber&search\\_type=0&q=](https://rakuno.repo.nii.ac.jp/search?page=1&size=20&sort=controlnumber&search_type=0&q=) で随時公開予定]
- 浅川満彦・石崎隆弘. 2025. 酪農学園大学野生動物医学センター WAMC における研究・教育活動総括－2023 年以降刊行に関する補遺. 酪農大紀，自然. 49: 143-148. <https://rakuno.repo.nii.ac.jp/records/2000997>
- 小綿ななみ・浅川満彦. 2023. 酪農学園大学野生動物医学センター WAMC における研究・教育活動総括－その設置申請から運用停止までの刊行物に基づく概観. 酪農大紀，自然. 48: 85-118. <https://rakuno.repo.nii.ac.jp/records/2000041>

<後編に続く▶>

**写真** 図 1 オクスフォード大学出版会刊『Conservation Medicine』表紙とそこに使用されている保全医学関連分野・領域を配置したベン図の解釈

